

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473800637
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	グループホーム 翠嵐の風
訪問調査日	平成21年7月24日
評価確定日	平成21年8月25日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年8月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1473800637
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	グループホーム 翠嵐の風
所在地	224-0001 横浜市都筑区中川8-11-18 (電話) 045-914-6633

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F
訪問調査日	平成21年7月24日
評価確定日	平成21年8月25日

【情報提供票より】(平成21年 7月 22日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 4月 1日
ユニット数	3 ユニット
職員数	30 人
利用定員数計	27 人
常勤	18 人
非常勤	12 人
常勤換算	24.2 人

(2)建物概要

建物構造	木造造り
	1階建て0, 1階2棟 全部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	67,000 円	その他の経費(月額)	42,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(350,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1100 円		

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	27 名	男性	3 名	女性	24 名	
要介護1	5 名	要介護2	11 名			
要介護3	5 名	要介護4	6 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	84.3 歳	最低	70 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	横浜新緑総合病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体は秀峰会、テーマは「天に星、地に花、人に愛」でこれに沿った、地域密着をベースとした確固たる理念に展開され、これを各ユニットの玄関に掲示している。テーマはパンフレット、名刺にも記載し、一貫した介護ポリシーで関係事業所全体に展開している。横浜市営地下鉄センター北駅から徒歩10分、横浜市北部の丘陵地帯の新興住宅地の西側で、近くに川が流れ、果樹園や畑の広がる閑静な地域にある。駅からも近く、交通の便が良いためご家族も訪問しやすい。建物は平屋建2棟の3ユニットで2ユニットの棟が紫苑と萌黄、1ユニットの棟が茜と呼ばれている。2つの棟の間は中庭になっていて、歩く部分はコンクリートで散歩道となっており、その辺縁には樹木や花が植えられ和みのスペースとなっている。向かい側の果樹園に桜の木があり花見も楽しめる。開所して5年、近隣の人たちとの友好関係も深まっている。秀峰会では居心地の良い環境作りに取り組んでいて、季節感を取り入れた、しゃれた、センス溢れるインテリアには感心する。法人の5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)1U(美しく)活動に取り組み理念とともに展開している。食事についても自主メニューで法人の管理栄養士の指導も受け、利用者の希望する食事の提供が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前年度に引き続き今年度も職員の研修に取り組んでいる。法人としての階層別研修、スキルアップ研修、翠嵐の風内部で担当を決めた研修、外部研修後の伝達研修などにより職員全体のボトムアップを図っている。法人としての研修は福祉全般的になるので、グループホーム事業部でグループホームに限定した研修も企画している。新人の受け入れ研修はインストラクターを設定し、OJTを1ヶ月程度行い、夜勤研修は2~3回行い、1人で出来ることを目指し、不安な場合はもう1晩一緒に行った後、インストラクターと相談のうえ1人立ちできるようサポートしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を職員のレベルアップに活用すべく展開している。今回は、前回の自己評価を職員全員に目を通してもらい、管理者とユニットリーダーで今回の自己評価素案を作成し、ミーティングで意見を聞き纏める方式で行った。3ユニットのため各ユニットは良き隣人の関係を保ち、お互いに良いところを見るようにし、良い点を自分のユニットでも取り入れる前向きな展開を進めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は3ヶ月に1回実施のペースでコンスタントに実施出来ている。メンバーは自治会長、地元のシニアクラブ(中川永楽会)の方、ご家族(各ユニット1名)、利用者本人(2名)、ホーム関係者で、オブザーバーとして地域包括支援センターの方が加わっている。運営推進会議の効用の実例として、会議の中でご家族から道が凸凹で危ないとの話が出て、それを自治会長さんが行政に話してくれたことで、道の改修が今実現している。また、非常時の自治会との電話ネットワークも実現出来た。地域包括支援センターでは認知症が軽い方を対象に茶話会などを開催しているので可能な利用者さんの参加を推進している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族の面会は多く、少ない方でも最低月1回は訪問してくれているので、コミュニケーションは良く取れている。また、イベントや遠出の時にはご家族がご参加頂き、協力して頂いているのが助かっている。ご家族とは来訪時に個々の利用者さんに対するお気持ちをお伺いする他、運営推進会議の席上ではホーム全般に対するご意見やご質問を受ける機会が取れ、共に有効であると考えている。ご家族とは夏祭りやX'mas会などで交流を図り、今回は可能な利用者、可能なご家族に別のユニットに参加してもらおう試みを実施してみたが、混乱も無く好評であった。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ボランティア活動ではハーモニカ、オカリナ、バナナのたたき売り、フラダンス、ピアソラなどが順次来てくれている。これらは随時の訪問であるが、南所以来続いている絵手紙や絵手紙の先生の紹介で千切り絵、朗読などを3ユニット合同で継続して楽しんでいる。秀峰会の感謝祭にボランティアの先生をお招きしたことで、ボランティアの先生が系列のグループホームにも来て頂けるなど輪が広がったことも嬉しい。東山田中学の生徒さんの体験学習を受け入れている。地域の夏祭りにも参加し楽しんでいる。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、グループホームの中でご利用者が自由に本人らしく生き生きと安心して暮らせるよう支援していく。近隣での買い物また美容院・施設等利用している。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	人間が主体との気持ちを根底に持ち、理念を記載した携帯用の「羅針盤」を常に携帯し、理念を日常のものとしている。地域密着をベースにした理念のもと、日々の申し送りやカンファレンスで方針・目標を示し、確認し、実践に向けて日々取り組んでいる。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。地域で行われる行事(夏祭りや秋祭り等)に毎年参加しているが、地域の皆さんが声をかけて下さるので嬉しく思う。地元のボランティアの受け入れ、見学・研修(東山田中学)の受け入れなど地域とのつながりを進めている。		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	研修に活用し、職員のレベルアップに取り組んでいる。3ユニットのため各ユニットは良き隣人の関係を保ち、お互いに良いところを見るようにし、良い点を自分のユニットでも取り入れる前向きな展開を進めている。職員は必ず自己評価及び外部評価の内容・結果を確認し各自職員の自己評価の実施に努めている。		今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回実施のペースでコンスタントに実施出来ている。運営推進会議の効用の実例として、会議の中で道が凸凹で危ないとの話しが、自治会長を経て行政に話しが通り、道の改修が実現している。地域包括支援センターでは認知症が軽い方を対象に茶話会などを開催しているので可能な利用者さんの参加を推進している。		ご家族・地域の方のグループホームへの協力を頂き、お互いを知ることが出来た。今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	横浜市高齢者グループホーム連絡会(市の職員の参加あり)や都筑・港北区のブロック会議(区の職員の参加もあり)で多くの情報を得ている。各種の研修もあり参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	預かり金は毎月領収書と明細を渡している。普段の様子などの写真を掲示、またアルバムにし、いつでも自由に見れるようになっている。家族の訪問時の際近況報告をしている。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に参加の際、意見や要望を伺い運営に反映している。家族の訪問時、聞き取りに努めている。家族の会はユニット毎に行うが、今回は可能な利用者、可能なご家族に別のユニットの家族会に参加してもらおう試みを実施してみたが、混乱も無く好評であった。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	面接の実施や普段からのコミュニケーションを図り、離職を抑えるよう努めている。また代わる場合は利用者に支障のないよう、チームケアにより職員全体で配慮し、サービスに努めている。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加し、参加者は報告書を作成し各ユニットにファイルし、職員全員が閲覧できるようにしている。またユニット会議や申し送り等で報告の場を設け、職員全体のスキルアップと共に共有化を図っている。研修担当者を決め、職員に希望を聴きながら年間の研修計画を立て実施して行くことにしている。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神奈川県認知症高齢者グループホーム協議会・横浜高齢者グループホーム連絡会に参加し相互研修・勉強会に参加している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望の方には1日体験やグループホーム内での行事や演奏会等に参加していただき、なじみの関係作りとスムーズな入居に努めている。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活するパートナーとして、また人生の先輩として尊敬の念を忘れずご本人の力をお借りして一緒に泣いたり、笑ったり過ごしながら支えあう関係を築いている。日々生活の中で家事や日本の文化・習慣等教えられることが多い。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には法人内特用のアセスメント表に添って、ご本人・ご家族からのグループホームでの暮らしや意向を伺い、また入居後は日々の生活の関わりの中で思いや意向の把握に努めている。個々の好きな音楽を流したり、本や雑誌を揃えたり、意向を踏まえた食事を提供したり、満足度の高い生活に努めている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者・ご家族の意向を伺い、また本人がより良く暮らすための工夫をユニット会議や申し送りの中で話し合い介護計画に反映している。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のユニット会議の中で3ヶ月に1回の定期見直しの他、必要に応じ、随時見直しを実施し改善をしている。本人・家族と評価を行い、現状に合った計画を作成している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の他の事業所で行われる行事等に参加している。グループホーム事業部内の各グループホームとの連携は密であり、お互いの情報を有効に活用出来ている。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は生活の様子・身体状態等伝えている。また連絡がとれるような関係になっている。グループホーム事業部で採用した看護師が週3回(各ユニット週1回づつ)勤務しておりワーカーとの関係も良く、ワーカーの安心の面での効果は大きい。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医・ご家族・ご本人と共に予め重度化が進んだ時に備えて話しあったり、万が一退所になる場合にはその後の進路について、ご本人・ご家族・主治医と共に話し合い、ご本人にとって最善の場を提供できるよう支援している。		今後も継続して実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人の理念に基づき入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう言葉かけや対応には配慮している。また、個人情報に関しても守秘義務の徹底に努めている。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムに配慮しながら、起床・食事・入浴・就寝時間は柔軟に対応している。待つケアを重視している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各テーブルに職員が入り一緒に食事をし、楽しい雰囲気づくりを心掛けている。また、買い物・調理は一緒に行っている。お誕生日には本人の好きなものを入れ、お祝い膳を用意している。また馴染み深いおやきを作っていたり皆で食べた。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来る限り一人ひとりの希望やタイミングに合わせてゆったりと気持ち良い入浴を楽しんでいただいている。希望者には毎日、また失禁など有った場合等必要に応じていつでも入浴できるよう支援している。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々日常の中で一人ひとりの楽しみや役割、出番が見出せるよう場面作り等行っている。認知症のレベルがすすんでいる方も同じである。買い物・料理・掃除・洗濯物畳み・草取り・園芸・生け花・音楽鑑賞など役割・楽しみ事をホーム内・地域の中で支援している。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の買い物や散歩の他、外食や地域の行事等に出掛けられるよう支援している。さくら・あじさい・ばら等花見に公園や寺院に出掛けている。また19時からの野外の星空のコンサート等に参加し楽しんでもらった。計画したものでその日の天候等で柔軟に対応している。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は施錠せず、利用者がいつでも自由に入出りできるようにしている。利用者の皆さんは庭へ出で好きな場所好きなベンチで過ごしている。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署より夜間を設定した避難訓練等の指導を実施している。また自治会の方にも協力が得られるよう話している。秀峰会のグループホーム事業部では全グループホームに食料の備蓄を整備している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者お一人ひとりの食事摂取量は残食量から大まかに把握している。またご利用者の体調や状態によっては食事量等チェックしている。法人の栄養管理士に常に相談するようにしている。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は暖かく和やかな家庭的な雰囲気を作っています。四季を感じるもの、行事に関する置物や草花等、調度や装飾にも気をつけている。利用者が落ち着いて暮らせるよう音や光に配慮している。法人内の5S1Uの担当者が巡回し、季節を取り入れた装飾をしたり、清掃の点検をしたり、法人全体で居心地の良い環境作りに努めている。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に関しては入居時にご本人・ご家族と相談しながら、慣れ親しんだ家具やお気に入りの物を継続して利用して頂けているよう勧めている。本人が居心地良く、安心して過ごせるような居室作りを心掛けている。居室にはご本人の昔の写真やご家族・ペットの写真などが置かれている。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム翠嵐の風
(ユニット名)	紫苑
所在地 (県・市町村名)	神奈川県都筑区中川8-11-18
記入者名 (管理者)	湯口 美代子
記入日	平成 21年 6月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、GHの中でご利用者が自由に本人らしく生き生きと安心して暮らせるよう支援していく。		近隣での買い物また美容院・施設等利用している。地元のボランティアの受け入れ、見学・研修(東山田中学)の受け入れなど地域とのつながりを進めている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着をベースにした理念のもと、日々の申し送りやカンファレンスで方針・目標を示し、確認し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進委員会・行事・訪問時にまた、日々の支援の中で実践している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩・買い物の途中で立ち話をしたり、野菜や花を頂いたり、一緒にお茶を飲みながら世間話をしたり、またGHで行うミニコンサートや夏祭り交流会等地域の方に声をかけ参加して頂いている。		近隣の方からお庭の花や紫蘇・野菜等頂き料理している。また料理した物を近隣の方にお裾分けしている。地域の方が庭の様子を見ながら草取りに来てくださる。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。地域で行われる行事等に毎年参加させて頂いているが、地域の皆さんが声をかけて下さり嬉しく思う。		地域の夏祭りや秋祭りに参加。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	区委託の予防介護教室を受託している。見学・ボランティアの受け入れは随時行い、認知症・GHの役割等説明している。	○	介護保険制度や認知症等に関する相談の場を設けたい。自治会や老人会との活動を通じて何か出来る事を話しあっている。
---	--	---	---	---

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	研修に活用し、職員のレベルアップに取り組んでいる。		職員は必ず自己評価及び外部評価の内容・結果を確認し各自職員の自己評価の実施に努める。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでに3回運営推進会議を実施。地域・家族の意見・要望等話し合いができた。		ご家族・地域の方のGHへの協力を互いに知ることができた。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	横浜市高齢者GH連絡会(市の職員の参加あり)。また、都筑・港北区のブロック会議(区の職員の参加もあり)では多くの情報を得ている。各種の研修もあり参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	横浜市と都筑区での研修に参加し、資料をファイルしている。必要性を理解している。	○	全職員で理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政の研修等に参加し、学び合い虐待がないよう、また見逃さないよう努めている。		今後も職員が学ぶ機会を作り、全員で意識を高めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時の際、家族からの疑問に答え、納得がいくまで説明をしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に参加。また家族の訪問時に家族から伺いサービスに反映している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	預かり金は毎月領収書と明細を渡している。普段の様子などの写真を掲示、またアルバムにし、いつでも自由に見れるようになっている。家族の訪問時の際近況報告をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に参加の際、意見や要望を伺い運営に反映している。家族の訪問時、聞き取りに努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々業務の中で、また月1回実施している会議にて業務改善に努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の緊急時また必要な時間帯には多目の職員を確保し、勤務の調整を実施している。 家族の要望等にはできる範囲で対応に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	面接の実施や普段からのコミュニケーションを図り、離職を抑えるよう努めている。また代わる場合は利用者に支障のないよう、職員全体で配慮し、サービスに努めている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み	法人内外の研修に参加。参加者は報告書を作成し、ター		

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加し、参加者は報告書を作成し各ユニットにファイルし、職員全員が閲覧できるようにしている。またユニット会議や申し送り等で報告の場を設け、職員全体のスキルアップと共に共有化を図る。		研修担当者を決め、職員に希望を聴きながら年間の研修計画を立て実施していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神奈川県認知症高齢者GH協議会・横浜高齢者GH連絡会に参加し相互研修・勉強会に参加している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に面接があり、直接意見を聴く場を設けている。専門家の窓口相談がある。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回、自己評価及び法人特用の書式の中で、課題や希望に対して、解決の対応策を引き出す。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の相談より、ご本人との面談を重ね、入居後の関係作りと支援に活かしている。		希望の方には1日体験やGH内での行事や演奏会等に参加していただき、なじみの関係作りとスムーズな入居に努めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至る経過、生活、対人関係、ご本人・ご家族の不安や希望を受け入れ、安心できるGHでの生活に努めている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、ご本人・ご家族のニーズを見極め、今必要としたサービスの紹介に努めている。		

26	<p>○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>希望の方には1日体験やGH内での行事や演奏会等に参加していただき、なじみの関係作りとスムーズな入居に努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>共に生活するパートナーとして、また人生の先輩として尊敬の念を忘れずご本人の力をお借りして一緒に泣いたり、笑ったり過ごしながら支えあう関係を築いている。</p>		<p>日々生活の中で家事や日本の文化・習慣等教えられることが多い。</p>
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会をつくっている。</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>ご家族がご本人の暮らしや介護にとって最も大切な人という場面を作っている。</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人や知人の訪問、電話の取次ぎを行っている。盆や正月等親戚の集まる場への参加や帰郷を支援している。</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>職員は1人ひとりのお年寄りを良く理解し、アクティビティへの参加、入居者同士の関わり合いを配慮しながら環境・場面を提供している。</p>		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>退去後、入居中の生活やケア内容について家族に提示し、随時相談は受けている。またGHでの行事等をお知らせしている。</p>		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には法人内特用のアセスメント表に添って、ご本人・ご家族からのGHでの暮らしや意向を伺い、また入居後は日々の生活の関わりの中で思いや意向の把握に努めている。		個々の好きな音楽を流したり、本や雑誌を揃えたり、意向を踏まえた食事を提供したり、満足度の高い生活に努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはできる限り自宅にて面接を行い、生活歴。馴染みの暮らし方・生活環境・サービスの利用状況を伺い、把握していく。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々生活の中で関わりながら、心身状態の変化への気付き、今できることとできないことを見極め、申し送りにて周知を図り、現状の把握に努めている。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者・ご家族の意向を伺い、また本人がより良く暮らすための工夫をユニット会議や申し送りの中で話し合い介護計画に反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のユニット会議の中で3ヶ月に1回の定期見直しの他、必要に応じ、随時見直しを実施し改善をしている。本人・家族と評価を行い、現状に合った計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活や健康状態等、ケアの実践・結果・気づきを記録に残し、申し送りで共有している。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の他の事業所で行われる行事等に参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	夏には都筑区の夜空のコンサートを鑑賞また歴史博物館を見学。消防署の消火器の訓練では希望者に参加して頂いた。フラダンス・茶会・音楽・お花・絵・朗読等々たくさんのボランティアさんの協力により支援ができた。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の外出に移送サービスを利用した。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	連絡推進委員会以外の行き来はないが、相談したときは協力が得られる。	○	今後、積極的に相談していく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は生活の様子・身体状態等伝えている。また連絡がとれるような関係になっている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	訪問医・かかりつけ医からの紹介があり、相談したり、受診・治療の支援を行っている。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問診療医・看護婦・薬剤師とは情報交換しており、相談や指示を仰いでいる。また区の保健師の方ともブロック会や研修等で気軽に相談できる関係を作ってもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は早期に担当医師や相談員に面談し、身体状態や今後について話し合っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医・ご家族・ご本人と共に予め重度化が進んだ時に備えて話しあったり、万が一退所になる場合にはその後の進路について、ご本人・ご家族・主治医と共に話し合い、ご本人にとって最善の場を提供できるよう支援している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日々主治医との連携をとり、GHでのできること・できないことを見極め理解・協力していただいている。状態の変化時も随時連絡できる体制であり、指示を仰いだり、往診もある。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居の際は事前面談に立ち会うなどして、入居中の生活やケア・内服薬等話し合い情報交換に努めている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人の理念に基づき入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう言葉かけや対応には配慮している。また、個人情報に関しても守秘義務の徹底に努めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々関わりの中でその方の希望や関心事を見極め、ご本人が選び易い場面作りをしている。言葉だけでなく全身の表情を観ながら思いの把握に努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムに配慮しながら、起床・食事・入浴・就寝時間は柔軟に対応している。待つケアを重視している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族と地域の気に入った美容院に出かけ、希望のヘアスタイルにしている。また訪問美容を利用し、カット・パーマ・毛染め等、本人の意向に添っていただいている。生活場面に合わせたその人らしい服装を支援している。		日々の買い物等希望があれば本人と一緒に出かけご本人の気に入ったものを購入している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各テーブルに職員が入り一緒に食事をし、楽しい雰囲気づくりを心掛けている。また、買い物・調理は一緒に行っている。お誕生日には本人の好きなものを入れ、お祝い膳を用意している。また馴染み深いおやきを作っていただき皆で食べた。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居前の生活と同じように晩酌をされていた方には医師と家族と相談し、同じように呑んでいただいている。またお菓子や飲み物も好きな物を一緒に買ってきたりし、おやつにしている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンを把握し、チェック表をつけながらさりげなく声かけにて案内している。		
	○入浴を楽しむことができる支援	出来る限り一人ひとりの希望やタイミングに合わせてゆったり		

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来る限り一人ひとりの希望やタイミングに合わせてゆつたりと気持ち良い入浴を楽しんでいただいている。希望者には毎日、また失禁など有った場合等必要に応じていつでも入浴できるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	散歩や買い物に出かけたり、レクリエーション・家事など日中の活動を通して個々に合わせた生活のリズム作りを行っている。また日中うとうとできるようなソファをリビングに2箇所置いている。		天気の良い日は中庭やテラスのベンチで日光浴や外気浴を取り入れている。 安眠確保のため家事やレクリエーション等日中の充実に努めている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々日常の中で一人ひとりの楽しみや役割、出番が見出せるよう場面作り等行っている。認知症のレベルがすすんでいる方も同じである。		買い物・料理・掃除・洗濯物畳み・草取り・園芸・生け花・音楽鑑賞など役割・楽しみ事をホーム内・地域の中で支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族と話し合い、所持金の管理ができるか等把握して、できる部分はやって頂くようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の買い物や散歩の他、外食や地域の行事等に出掛けられるよう支援している。		さくら・あじさい・ばら等花見に公園や寺院に出掛けた。また19時からの野外の星空のコンサート等に参加し楽しまれた。計画したものやまたその日の天候等で柔軟に対応している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	星空のコンサート(19:00から)やお花見(桜・紫陽花・菖蒲・薔薇等)・外食にご家族もお誘いし出掛けている。		お孫さんの結婚式や親戚の集まり・クラス会にも出掛けられている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意思を尊重し、できるだけ自らが主体となって連絡ができるよう支援している。		1月に1回絵手紙の会があるのでその作品をご家族に郵送したことがある。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限は設けず、訪問し易い時間に来て頂いている。また居心地よく過ごせるよう雰囲気作りを心掛けている。		遠方からの訪問の方は宿泊もしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議等で伝達し合い、日々身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		研修等に参加し引き続き全職員に周知徹底を図る。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は施錠せず、利用者がいつでも自由に入出りできるようにしている。		ご利用者の皆さんが庭へ出で好きな場所好きなベンチで過ごされている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご利用者のその時の状況・状態に合わせ、ご利用者にとって心地良い距離感をとり安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁・はさみ等個人の能力・状態に応じて職員と一緒に、または見守りを行い事故のないよう利用して頂いている。		危険に繋がるような物は使用時以外は目に付かないところに保管している、。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりのその日その時の状態に応じた事故防止に取り組んでいる。またインシデント・ヒヤリハットレポートの徹底を図り、事故原因を究明し事故防止に努めている。		法人内外の緊急時の対応の研修に参加している。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを作成し、職員も内容を理解している。また随時確認しやすい場所に設置している。		法人内外の緊急時の対応の研修に参加している。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署より夜間を設定した避難訓練等の指導を実施している。また自治会の方にも協力が得られるよう話している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクをご家族に説明し、よりその人らしい生活ができるよう職員間で話し合い取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全職員が身体状態の変化や異常を早期に発見と対応の大切さを理解している。また日々暮らしの中で常に表情や状態の変化を見落とさないよう努めている。		身体状態の異常や変化が観られた時は主治医に相談報告をしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者が使用している薬剤の治療目的・薬の用法や用量を把握し医師の指示通りに服薬できるよう支援している。		いつでも確認できるようご利用者一人ひとりの処方箋をファイルしている。また薬の服用によって変化がある場合は記録し、医師に連絡している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操・散歩・繊維質の摂取、水分の確保等心掛けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご利用者お一人ひとりの習慣や、出来る事・出来ない事を把握し、個人の能力に応じた支援をしている。		ご希望の方は歯科医による口腔内検診を定期的に行っている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者お一人ひとりの食事摂取量は残食量から大まかに把握している。またご利用者の体調や状態によっては食事量等チェックしている。		同法人の栄養管理士に相談できる。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルがある。またうがい手洗いを励行している。		インフルエンザの予防注射をしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・包丁等はチェック表を作り毎日消毒をしている。また食材は毎日購入し新鮮なものを使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門にはご利用者と一緒につくったホームの名前入りのポストを立て掛けています。外からは敷地内が見渡せ、中庭や建物の周りには季節の花が咲いています。ベンチもあり、散歩途中の近隣の方達にも休める場所を工夫しています。		庭の手入れをご利用者・職員・地域の老人会で定期的に行っている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は暖かく和やかな家庭的な雰囲気を作っています。四季を感じるもの、行事に関する置物や草花等、調度や装飾にも気をつけています。ご利用者が落ち着いて暮らせるよう音や光に配慮しています。		法人内の5S1Uの担当者が巡回し、季節を取り入れた装飾をしたり、清掃の点検をしたり、法人全体で居心地の良い環境作りに努めている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子・テーブルの配置等を工夫し、ご利用者が一人になったり、気の合った同士で自由に過ごせるような居場所を作っている。		フロアにソファのコーナーや籐の椅子を窓際や玄関に置き、ご利用者の皆さんは思い思いの場所で過ごされている。また中庭やテラスにもベンチを配置している。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に関しては入居時にご本人・ご家族と相談しながら、慣れ親しんだ家具やお気に入りの物を継続して利用して頂いているよう努めています。ご本人が居心地良く、安心して過ごせるような居室作りを心掛けています。		居室にはご本人の昔の写真やご家族・ペットの写真が置かれています。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>時間ごとの換気に努め、居室、リビングの温度管理をご利用者の状態を観ながら適時行っている。</p>		<p>冬の時は乾燥し過ぎないように、加湿器を設置している。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>必要な方にはベッドに介助バーを取り付け、立ち上がり・移乗等、自立の支援を行っている。また、トイレ・浴室には手摺りを取り付け安全と自立への支援を行っている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>一人ひとりのわかる力を把握し、家庭的な雰囲気壊さないよう工夫しながら自立支援に努めている。</p>		<p>ご利用者と一緒に作った表札を各居室に付けている。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>外周りにはご利用者・職員が植えた草花があり、各居室から眺めることができる。また空いた空間に野菜も育てている。テラスでは外気浴しながら談話やお茶を楽しまれている。</p>		<p>ご利用者が自由に出入りし、草花に水をあげたり、摘んでリビングに飾ったり仏壇に供えている。 気候の良い日はテラスや庭のベンチでお茶を飲んだり、庭の四季折々の草花や木々を眺めながら会話も弾んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的にかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム翠嵐の風
(ユニット名)	萌黄
所在地 (県・市町村名)	神奈川県都筑区中川8-11-18
記入者名 (管理者)	湯口 美代子
記入日	平成 21年 6月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、GHの中でご利用者が自由に本人らしく生き生きと安心して暮らせるよう支援していく。		近隣での買い物また美容院・施設等利用している。地元のボランティアの受け入れ、見学・研修(東山田中学)の受け入れなど地域とのつながりを進めている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着をベースにした理念のもと、日々の申し送りやカンファレンスで方針・目標を示し、確認し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進委員会・行事・訪問時にまた、日々の支援の中で実践している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩・買い物の途中で立ち話をしたり、野菜や花を頂いたり、一緒にお茶を飲みながら世間話をしたり、またGHで行うミニコンサートや夏祭り交流会等地域の方に声をかけ参加して頂いている。		近隣の方からお庭の花や紫蘇・野菜等頂き料理している。また料理した物を近隣の方にお裾分けしている。地域の方が庭の様子を見ながら草取りに来てくださる。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。地域で行われる行事等に毎年参加させて頂いているが、地域の皆さんが声をかけて下さり嬉しく思う。		地域の夏祭りや秋祭りに参加。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	区委託の予防介護教室を受託している。見学・ボランティアの受け入れは随時行い、認知症・GHの役割等説明している。	○	介護保険制度や認知症等に関する相談の場を設けたい。自治会や老人会との活動を通じて何か出来る事を話しあっている。
---	--	---	---	---

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	研修に活用し、職員のレベルアップに取り組んでいる。		職員は必ず自己評価及び外部評価の内容・結果を確認し各自職員の自己評価の実施に努める。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでに3回運営推進会議を実施。地域・家族の意見・要望等話し合いができた。		ご家族・地域の方のGHへの協力を互いに知ることができた。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	横浜市高齢者GH連絡会(市の職員の参加あり)。また、都筑・港北区のブロック会議(区の職員の参加もあり)では多くの情報を得ている。各種の研修もあり参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	横浜市と都筑区での研修に参加し、資料をファイルしている。必要性を理解している。	○	全職員で理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政の研修等に参加し、学び合い虐待がないよう、また見逃さないよう努めている。		今後も職員が学ぶ機会を作り、全員で意識を高めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時の際、家族からの疑問に答え、納得がいくまで説明をしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に参加。また家族の訪問時に家族から伺いサービスに反映している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	預かり金は毎月領収書と明細を渡している。普段の様子などの写真を掲示、またアルバムにし、いつでも自由に見れるようになっている。家族の訪問時の際近況報告をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に参加の際、意見や要望を伺い運営に反映している。家族の訪問時、聞き取りに努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々業務の中で、また月1回実施している会議にて業務改善に努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の緊急時また必要な時間帯には多目の職員を確保し、勤務の調整を実施している。 家族の要望等にはできる範囲で対応に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	面接の実施や普段からのコミュニケーションを図り、離職を抑えるよう努めている。また代わる場合は利用者に支障のないよう、職員全体で配慮し、サービスに努めている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み	法人内外の研修に参加。参加者は報告書を作成し、ター		

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加し、参加者は報告書を作成し各ユニットにファイルし、職員全員が閲覧できるようにしている。またユニット会議や申し送り等で報告の場を設け、職員全体のスキルアップと共に共有化を図る。		研修担当者を決め、職員に希望を聴きながら年間の研修計画を立て実施していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神奈川県認知症高齢者GH協議会・横浜高齢者GH連絡会に参加し相互研修・勉強会に参加している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に面接があり、直接意見を聴く場を設けている。専門家の窓口相談がある。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回、自己評価及び法人特用の書式の中で、課題や希望に対して、解決の対応策を引き出す。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の相談より、ご本人との面談を重ね、入居後の関係作りと支援に活かしている。		希望の方には1日体験やGH内での行事や演奏会等に参加していただき、なじみの関係作りとスムーズな入居に努めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至る経過、生活、対人関係、ご本人・ご家族の不安や希望を受け入れ、安心できるGHでの生活に努めている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、ご本人・ご家族のニーズを見極め、今必要としたサービスの紹介に努めている。		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望の方には1日体験やGH内での行事や演奏会等に参加していただき、なじみの関係作りとスムーズな入居に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活するパートナーとして、また人生の先輩として尊敬の念を忘れずご本人の力をお借りして一緒に泣いたり、笑ったり過ごしながら支えあう関係を築いている。		日々生活の中で家事や日本の文化・習慣等教えられることが多い。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会をつくっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族がご本人の暮らしや介護にとって最も大切な人という場面を作っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の訪問、電話の取次ぎを行っている。盆や正月等親戚の集まる場への参加や帰郷を支援している。		ご家族と自宅地域のお祭りに参加している。 帰郷。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は1人ひとりのお年寄りを良く理解し、アクティビティへの参加、入居者同士の関わり合いを配慮しながら環境・場面を提供している。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後、入居中の生活やケア内容について家族に提示し、随時相談は受けている。またGHでの行事等をお知らせしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には法人内特用のアセスメント表に添って、ご本人・ご家族からのGHでの暮らしや意向を伺い、また入居後は日々の生活の関わりの中で思いや意向の把握に努めている。		個々の好きな音楽を流したり、本や雑誌を揃えたり、意向を踏まえた食事を提供したり、満足度の高い生活に努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはできる限り自宅にて面接を行い、生活歴。馴染みの暮らし方・生活環境・サービスの利用状況を伺い、把握していく。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々生活の中で関わりながら、心身状態の変化への気付き、今できることとできないことを見極め、申し送りにて周知を図り、現状の把握に努めている。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者・ご家族の意向を伺い、また本人がより良く暮らすための工夫をユニット会議や申し送りの中で話し合い介護計画に反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のユニット会議の中で3ヶ月に1回の定期見直しの他、必要に応じ、随時見直しを実施し改善をしている。本人・家族と評価を行い、現状に合った計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活や健康状態等、ケアの実践・結果・気づきを記録に残し、申し送りで共有している。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の他の事業所で行われる行事等に参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	夏には都筑区の夜空のコンサートを鑑賞また歴史博物館を見学。消防署の消火器の訓練では希望者に参加して頂いた。フラダンス・茶会・音楽・お花・絵・朗読等々たくさんのボランティアさんの協力により支援ができた。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の外出に移送サービスを利用した。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	連絡推進委員会以外の行き来はないが、相談したときは協力が得られる。	○	今後、積極的に相談していく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は生活の様子・身体状態等伝えている。また連絡がとれるような関係になっている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	訪問医・かかりつけ医からの紹介があり、相談したり、受診・治療の支援を行っている。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問診療医・看護婦・薬剤師とは情報交換しており、相談や指示を仰いでいる。また区の保健師の方ともブロック会や研修等で気軽に相談できる関係を作ってもらっている。	○	4月より週1回の看護師の体制を整えた。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は早期に担当医師や相談員に面談し、身体状態や今後について話し合っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医・ご家族・ご本人と共に予め重度化が進んだ時に備えて話しあったり、万が一退所になる場合にはその後の進路について、ご本人・ご家族・主治医と共に話し合い、ご本人にとって最善の場を提供できるよう支援している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日々主治医との連携をとり、GHでのできること・できないことを見極め理解・協力していただいている。状態の変化時も随時連絡できる体制であり、指示を仰いだり、往診もある。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居の際は事前面談に立ち会うなどして、入居中の生活やケア・内服薬等話し合い情報交換に努めている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人の理念に基づき入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう言葉かけや対応には配慮している。また、個人情報に関しても守秘義務の徹底に努めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々関わりの中でその方の希望や関心事を見極め、ご本人が選び易い場面作りをしている。言葉だけでなく全身の表情を観ながら思いの把握に努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムに配慮しながら、起床・食事・入浴・就寝時間は柔軟に対応している。待つケアを重視している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族と地域の気に入った美容院に出かけ、希望のヘアスタイルにしている。また訪問美容を利用し、カット・パーマ・毛染め等、本人の意向に添っていただいている。生活場面に合わせたその人らしい服装を支援している。		日々の買い物等希望があれば本人と一緒に出かけご本人の気に入ったものを購入している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各テーブルに職員が入り一緒に食事をし、楽しい雰囲気づくりを心掛けている。また、買い物・調理は一緒に行っている。お誕生日には本人の好きなものを入れ、お祝い膳を用意している。また馴染み深いおやきを作っていただき皆で食べた。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居前の生活と同じように晩酌をされていた方には医師と家族と相談し、同じように呑んでいただいている。またお菓子や飲み物も好きな物を一緒に買ってきたりし、おやつにしている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンを把握し、チェック表をつけながらさりげなく声かけにて案内している。		
	○入浴を楽しむことができる支援	出来る限り一人ひとりの希望やタイミングに合わせてゆったり		

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来る限り一人ひとりの希望やタイミングに合わせてゆつたりと気持ち良い入浴を楽しんでいただいている。希望者には毎日、また失禁など有った場合等必要に応じていつでも入浴できるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	散歩や買い物に出かけたり、レクリエーション・家事など日中の活動を通して個々に合わせた生活のリズム作りを行っている。また日中うとうとできるようなソファをリビングに2箇所置いている。		天気の良い日は中庭やテラスのベンチで日光浴や外気浴を取り入れている。 安眠確保のため家事やレクリエーション等日中の充実に努めている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々日常の中で一人ひとりの楽しみや役割、出番が見出せるよう場面作り等行っている。認知症のレベルがすすんでいる方も同じである。		買い物・料理・掃除・洗濯物畳み・草取り・園芸・生け花・音楽鑑賞など役割・楽しみ事をホーム内・地域の中で支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族と話し合い、所持金の管理ができるか等把握して、できる部分はやって頂くようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の買い物や散歩の他、外食や地域の行事等に出掛けられるよう支援している。		さくら・あじさい・ばら等花見に公園や寺院に出掛けた。また19時からの野外の星空のコンサート等に参加し楽しまれた。計画したものやまたその日の天候等で柔軟に対応している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	星空のコンサート(19:00から)やお花見(桜・紫陽花・菖蒲・薔薇等)・外食にご家族もお誘いし出掛けている。		お孫さんの結婚式や親戚の集まり・クラス会にも出掛けられている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意思を尊重し、できるだけ自らが主体となって連絡ができるよう支援している。		1月に1回絵手紙の会があるのでその作品をご家族に郵送したことがある。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限は設けず、訪問し易い時間に来て頂いている。また居心地よく過ごせるよう雰囲気作りを心掛けている。		遠方からの訪問の方は宿泊もしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議等で伝達し合い、日々身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		研修等に参加し引き続き全職員に周知徹底を図る。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は施錠せず、利用者がいつでも自由に入出りできるようにしている。		ご利用者の皆さんが庭へ出で好きな場所好きなベンチで過ごされている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご利用者のその時の状況・状態に合わせ、ご利用者にとって心地良い距離感をとり安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁・はさみ等個人の能力・状態に応じて職員と一緒に、または見守りを行い事故のないよう利用して頂いている。		危険に繋がるような物は使用時以外は目に付かないところに保管している、。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりのその日その時の状態に応じた事故防止に取り組んでいる。またインシデント・ヒヤリハットレポートの徹底を図り、事故原因を究明し事故防止に努めている。		法人内外の緊急時の対応の研修に参加している。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを作成し、職員も内容を理解している。また随時確認しやすい場所に設置している。		法人内外の緊急時の対応の研修に参加している。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署より夜間を設定した避難訓練等の指導を実施している。また自治会の方にも協力が得られるよう話している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクをご家族に説明し、よりその人らしい生活ができるよう職員間で話し合い取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全職員が身体状態の変化や異常を早期に発見と対応の大切さを理解している。また日々暮らしの中で常に表情や状態の変化を見落とさないよう努めている。		身体状態の異常や変化が観られた時は主治医に相談報告をしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者が使用している薬剤の治療目的・薬の用法や用量を把握し医師の指示通りに服薬できるよう支援している。		いつでも確認できるようご利用者一人ひとりの処方箋をファイルしている。また薬の服用によって変化がある場合は記録し、医師に連絡している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操・散歩・繊維質の摂取、水分の確保等心掛けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご利用者お一人ひとりの習慣や、出来る事・出来ない事を把握し、個人の能力に応じた支援をしている。		ご希望の方は歯科医による口腔内検診を定期的に行っている。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者お一人ひとりの食事摂取量は残食量から大まかに把握している。またご利用者の体調や状態によっては食事量等チェックしている。		同法人の栄養管理士に相談できる。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルがある。またうがい手洗いを励行している。		インフルエンザの予防注射をしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・包丁等はチェック表を作り毎日消毒をしている。また食材は毎日購入し新鮮なものを使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門にはご利用者と一緒に行ったホームの名前入りのポストを立て掛けています。外からは敷地内が見渡せ、中庭や建物の周りには季節の花が咲いています。ベンチもあり、散歩途中の近隣の方達にも休める場所を工夫しています。		庭の手入れをご利用者・職員・地域の老人会で定期的に行っている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は暖かく和やかな家庭的な雰囲気を作っています。四季を感じるもの、行事に関する置物や草花等、調度や装飾にも気をつけています。ご利用者が落ち着いて暮らせるよう音や光に配慮しています。		法人内の5S1Uの担当者が巡回し、季節を取り入れた装飾をしたり、清掃の点検をしたり、法人全体で居心地の良い環境作りに努めている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子・テーブルの配置等を工夫し、ご利用者が一人になったり、気の合った同士で自由に過ごせるような居場所を作っている。		フロアにソファーのコーナーや籐の椅子を窓際や玄関に置き、ご利用者の皆さんは思い思いの場所で過ごされている。また中庭やテラスにもベンチを配置している。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に関しては入居時にご本人・ご家族と相談しながら、慣れ親しんだ家具やお気に入りの物を継続して利用して頂いているよう努めています。ご本人が居心地良く、安心して過ごせるような居室作りを心掛けています。		居室にはご本人の昔の写真やご家族・ペットの写真が置かれています。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>時間ごとの換気に努め、居室、リビングの温度管理をご利用者の状態を観ながら適時行っている。</p>		<p>冬の時は乾燥し過ぎないように、加湿器を設置している。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>必要な方にはベッドに介助バーを取り付け、立ち上がり・移乗等、自立の支援を行っている。また、トイレ・浴室には手摺りを取り付け安全と自立への支援を行っている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>一人ひとりのわかる力を把握し、家庭的な雰囲気を壊さないよう工夫しながら自立支援に努めている。</p>		<p>トイレに目印をつけたり、カレンダーをつけている。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>外周りにはご利用者・職員が植えた草花があり、各居室から眺めることができる。また空いた空間に野菜も育てている。テラスでは外気浴しながら談話やお茶を楽しまれている。</p>		<p>ご利用者が自由に出入りし、草花に水をあげたり、摘んでリビングに飾ったり仏壇に供えている。 気候の良い日はテラスや庭のベンチでお茶を飲んだり、庭の四季折々の草花や木々を眺めながら会話も弾んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム翠嵐の風
(ユニット名)	茜
所在地 (県・市町村名)	神奈川県都筑区中川8-11-18
記入者名 (管理者)	湯口 美代子
記入日	平成 21年 6月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、GHの中でご利用者が自由に本人らしく生き生きと安心して暮らせるよう支援していく。		近隣での買い物また美容院・施設等利用している。地元のボランティアの受け入れ、見学・研修(東山田中学)の受け入れなど地域とのつながりを進めている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着をベースにした理念のもと、日々の申し送りやカンファレンスで方針・目標を示し、確認し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進委員会・行事・訪問時にまた、日々の支援の中で実践している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩・買い物の途中で立ち話をしたり、野菜や花を頂いたり、一緒にお茶を飲みながら世間話をしたり、またGHで行うミニコンサートや夏祭り交流会等地域の方に声をかけ参加して頂いている。		近隣の方からお庭の花や紫蘇・野菜等頂き料理している。また料理した物を近隣の方にお裾分けしている。地域の方が庭の様子を見ながら草取りに来てくださる。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。地域で行われる行事等に毎年参加させて頂いているが、地域の皆さんが声をかけて下さり嬉しく思う。		地域の夏祭りや秋祭りに参加。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	区委託の予防介護教室を受託している。見学・ボランティアの受け入れは随時行い、認知症・GHの役割等説明している。	○	介護保険制度や認知症等に関する相談の場を設けたい。自治会や老人会との活動を通じて何か出来る事を話しあっている。
---	--	---	---	---

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	研修に活用し、職員のレベルアップに取り組んでいる。		職員は必ず自己評価及び外部評価の内容・結果を確認し各自職員の自己評価の実施に努める。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでに3回運営推進会議を実施。地域・家族の意見・要望等話し合いができた。		ご家族・地域の方のGHへの協力を互いに知ることができた。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	横浜市高齢者GH連絡会(市の職員の参加あり)。また、都筑・港北区のブロック会議(区の職員の参加もあり)では多くの情報を得ている。各種の研修もあり参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	横浜市と都筑区での研修に参加し、資料をファイルしている。必要性を理解している。	○	全職員で理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政の研修等に参加し、学び合い虐待がないよう、また見逃さないよう努めている。		今後も職員が学ぶ機会を作り、全員で意識を高めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時の際、家族からの疑問に答え、納得がいくまで説明をしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に参加。また家族の訪問時に家族から伺いサービスに反映している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	預かり金は毎月領収書と明細を渡している。普段の様子などの写真を掲示、またアルバムにし、いつでも自由に見れるようになっている。家族の訪問時の際近況報告をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に参加の際、意見や要望を伺い運営に反映している。家族の訪問時、聞き取りに努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々業務の中で、また月1回実施している会議にて業務改善に努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の緊急時また必要な時間帯には多目の職員を確保し、勤務の調整を実施している。 家族の要望等にはできる範囲で対応に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	面接の実施や普段からのコミュニケーションを図り、離職を抑えるよう努めている。また代わる場合は利用者に支障のないよう、職員全体で配慮し、サービスに努めている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み	法人内外の研修に参加。参加者は報告書を作成し、ター		

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加し、参加者は報告書を作成し各ユニットにファイルし、職員全員が閲覧できるようにしている。またユニット会議や申し送り等で報告の場を設け、職員全体のスキルアップと共に共有化を図る。		研修担当者を決め、職員に希望を聴きながら年間の研修計画を立て実施していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神奈川県認知症高齢者GH協議会・横浜高齢者GH連絡会に参加し相互研修・勉強会に参加している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に面接があり、直接意見を聴く場を設けている。専門家の窓口相談がある。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回、自己評価及び法人特用の書式の中で、課題や希望に対して、解決の対応策を引き出す。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の相談より、ご本人との面談を重ね、入居後の関係作りと支援に活かしている。		希望の方には1日体験やGH内での行事や演奏会等に参加していただき、なじみの関係作りとスムーズな入居に努めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至る経過、生活、対人関係、ご本人・ご家族の不安や希望を受け入れ、安心できるGHでの生活に努めている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、ご本人・ご家族のニーズを見極め、今必要としたサービスの紹介に努めている。		

26	<p>○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>希望の方には1日体験やGH内での行事や演奏会等に参加していただき、なじみの関係作りとスムーズな入居に努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>共に生活するパートナーとして、また人生の先輩として尊敬の念を忘れずご本人の力をお借りして一緒に泣いたり、笑ったり過ごしながら支えあう関係を築いている。</p>		<p>日々生活の中で家事や日本の文化・習慣等教えられることが多い。</p>
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会をつくっている。</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>ご家族がご本人の暮らしや介護にとって最も大切な人という場面を作っている。</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人や知人の訪問、電話の取次ぎを行っている。盆や正月等親戚の集まる場への参加や帰郷を支援している。</p>		<p>お仲間との書道をご家族と継続して通っている。</p>
31	<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>職員は1人ひとりのお年寄りを良く理解し、アクティビティへの参加、入居者同士の関わり合いを配慮しながら環境・場面を提供している。</p>		
項目		<p>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</p>	(○印)	<p>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</p>
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>退去後、入居中の生活やケア内容について家族に提示し、随時相談は受けている。またGHでの行事等をお知らせしている。</p>		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には法人内特用のアセスメント表に添って、ご本人・ご家族からのGHでの暮らしや意向を伺い、また入居後は日々の生活の関わりの中で思いや意向の把握に努めている。		個々の好きな音楽を流したり、本や雑誌を揃えたり、意向を踏まえた食事を提供したり、満足度の高い生活に努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはできる限り自宅にて面接を行い、生活歴。馴染みの暮らし方・生活環境・サービスの利用状況を伺い、把握していく。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々生活の中で関わりながら、心身状態の変化への気付き、今できることとできないことを見極め、申し送りにて周知を図り、現状の把握に努めている。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者・ご家族の意向を伺い、また本人がより良く暮らすための工夫をユニット会議や申し送りの中で話し合い介護計画に反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のユニット会議の中で3ヶ月に1回の定期見直しの他、必要に応じ、随時見直しを実施し改善をしている。本人・家族と評価を行い、現状に合った計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活や健康状態等、ケアの実践・結果・気づきを記録に残し、申し送りで共有している。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の他の事業所で行われる行事等に参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	夏には都筑区の夜空のコンサートを鑑賞また歴史博物館を見学。消防署の消火器の訓練では希望者に参加して頂いた。フラダンス・茶会・音楽・お花・絵・朗読等々たくさんのボランティアさんの協力により支援ができた。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の外出に移送サービスを利用した。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	連絡推進委員会以外の行き来はないが、相談したときは協力が得られる。	○	今後、積極的に相談していく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は生活の様子・身体状態等伝えている。また連絡がとれるような関係になっている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	訪問医・かかりつけ医からの紹介があり、相談したり、受診・治療の支援を行っている。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問診療医・看護婦・薬剤師とは情報交換しており、相談や指示を仰いでいる。また区の保健師の方ともブロック会や研修等で気軽に相談できる関係を作ってもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は早期に担当医師や相談員に面談し、身体状態や今後について話し合っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医・ご家族・ご本人と共に予め重度化が進んだ時に備えて話しあったり、万が一退所になる場合にはその後の進路について、ご本人・ご家族・主治医と共に話し合い、ご本人にとって最善の場を提供できるよう支援している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日々主治医との連携をとり、GHでのできること・できないことを見極め理解・協力していただいている。状態の変化時も随時連絡できる体制であり、指示を仰いだり、往診もある。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居の際は事前面談に立ち会うなどして、入居中の生活やケア・内服薬等話し合い情報交換に努めている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人の理念に基づき入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう言葉かけや対応には配慮している。また、個人情報に関しても守秘義務の徹底に努めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々関わりの中でその方の希望や関心事を見極め、ご本人が選び易い場面作りをしている。言葉だけでなく全身の表情を観ながら思いの把握に努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムに配慮しながら、起床・食事・入浴・就寝時間は柔軟に対応している。待つケアを重視している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族と地域の気に入った美容院に出かけ、希望のヘアスタイルにしている。また訪問美容を利用し、カット・パーマ・毛染め等、本人の意向に添っていただいている。生活場面に合わせたその人らしい服装を支援している。		日々の買い物等希望があれば本人と一緒に出かけご本人の気に入ったものを購入している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各テーブルに職員が入り一緒に食事をし、楽しい雰囲気づくりを心掛けている。また、買い物・調理は一緒に行っている。お誕生日には本人の好きなものを入れ、お祝い膳を用意している。また馴染み深いおやきを作っていただき皆で食べた。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居前の生活と同じように晩酌をされていた方には医師と家族と相談し、同じように呑んでいただいている。またお菓子や飲み物も好きな物を一緒に買ってきたりし、おやつにしている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンを把握し、チェック表をつけながらさりげなく声かけにて案内している。		
	○入浴を楽しむことができる支援	出来る限り一人ひとりの希望やタイミングに合わせてゆったり		

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来る限り一人ひとりの希望やタイミングに合わせてゆつたりと気持ち良い入浴を楽しんでいただいている。希望者には毎日、また失禁など有った場合等必要に応じていつでも入浴できるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	散歩や買い物に出かけたり、レクリエーション・家事など日中の活動を通して個々に合わせた生活のリズム作りを行っている。また日中うとうとできるようなソファをリビングに2箇所置いている。		天気の良い日は中庭やテラスのベンチで日光浴や外気浴を取り入れている。 安眠確保のため家事やレクリエーション等日中の充実に向けている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々日常の中で一人ひとりの楽しみや役割、出番が見出せるよう場面作り等行っている。認知症のレベルがすすんでいる方も同じである。		買い物・料理・掃除・洗濯物畳み・草取り・園芸・生け花・音楽鑑賞など役割・楽しみ事をホーム内・地域の中で支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族と話し合い、所持金の管理ができるか等把握して、できる部分はやって頂くようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の買い物や散歩の他、外食や地域の行事等に出掛けられるよう支援している。		さくら・あじさい・ばら等花見に公園や寺院に出掛けた。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	星空のコンサート(19:00から)やお花見(桜・紫陽花・菖蒲・薔薇等)・外食にご家族もお誘いし出掛けている。		お孫さんの結婚式や親戚の集まり・クラス会にも出掛けられている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意思を尊重し、できるだけ自らが主体となって連絡ができるよう支援している。		1月に1回絵手紙の会があるのでその作品をご家族に郵送したことがある。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限は設けず、訪問し易い時間に来て頂いている。また居心地よく過ごせるよう雰囲気作りを心掛けている。		遠方からの訪問の方は宿泊もしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議等で伝達し合い、日々身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		研修等に参加し引き続き全職員に周知徹底を図る。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は施錠せず、利用者がいつでも自由に入出りできるようにしている。		ご利用者の皆さんが庭へ出で好きな場所好きなベンチで過ごされている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご利用者のその時の状況・状態に合わせ、ご利用者にとって心地良い距離感をとり安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁・はさみ等個人の能力・状態に応じて職員と一緒に、または見守りを行い事故のないよう利用して頂いている。		危険に繋がるような物は使用時以外は目に付かないところに保管している、。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりのその日その時の状態に応じた事故防止に取り組んでいる。またインシデント・ヒヤリハットレポートの徹底を図り、事故原因を究明し事故防止に努めている。		法人内外の緊急時の対応の研修に参加している。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを作成し、職員も内容を理解している。また随時確認しやすい場所に設置している。		法人内外の緊急時の対応の研修に参加している。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署より夜間を設定した避難訓練等の指導を実施している。また自治会の方にも協力が得られるよう話している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクをご家族に説明し、よりその人らしい生活ができるよう職員間で話し合い取り組んでいる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全職員が身体状態の変化や異常を早期に発見と対応の大切さを理解している。また日々暮らしの中で常に表情や状態の変化を見落とさないよう努めている。		身体状態の異常や変化が観られた時は主治医に相談報告をしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者が使用している薬剤の治療目的・薬の用法や用量を把握し医師の指示通りに服薬できるよう支援している。		いつでも確認できるようご利用者一人ひとりの処方箋をファイルしている。また薬の服用によって変化がある場合は記録し、医師に連絡している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操・散歩・繊維質の摂取、水分の確保等心掛けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご利用者お一人ひとりの習慣や、出来る事・出来ない事を把握し、個人の能力に応じた支援をしている。		ご希望の方は歯科医による口腔内検診を定期的に行っている。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者お一人ひとりの食事摂取量は残食量から大まかに把握している。またご利用者の体調や状態によっては食事量等チェックしている。		同法人の栄養管理士に相談できる。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルがある。またうがい手洗いを励行している。		インフルエンザの予防注射をしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・包丁等はチェック表を作り毎日消毒をしている。また食材は毎日購入し新鮮なものを使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門にはご利用者と一緒に行ったホームの名前入りのポストを立て掛けています。外からは敷地内が見渡せ、中庭や建物の周りには季節の花が咲いています。ベンチもあり、散歩途中の近隣の方達にも休める場所を工夫しています。		庭の手入れをご利用者・職員・地域の老人会で定期的に行っている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は暖かく和やかな家庭的な雰囲気を作っています。四季を感じるもの、行事に関する置物や草花等、調度や装飾にも気をつけています。ご利用者が落ち着いて暮らせるよう音や光に配慮しています。		法人内の5S1U担当者が定期的に巡回し、季節感を取り入れた装飾をしたり、清掃ができていないか点検したり、法人全体で居心地の良い環境作りに取り組んでいる。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子・テーブルの配置等を工夫し、ご利用者が一人になったり、気の合った同士で自由に過ごせるような居場所を作っている。		フロアーにソファーのコーナーや籐の椅子を窓際や玄関に置き、ご利用者の皆さんは思い思いの場所で過ごされている。また中庭やテラスにもベンチを配置している。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に関しては入居時にご本人・ご家族と相談しながら、慣れ親しんだ家具やお気に入りの物を継続して利用して頂いているよう努めています。ご本人が居心地良く、安心して過ごせるような居室作りを心掛けています。		居室にはご本人の描いた絵や書を飾ったり三味線等も置いてある。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>時間ごとの換気に努め、居室、リビングの温度管理をご利用者の状態を観ながら適時行っている。</p>		<p>冬の時は乾燥し過ぎないように、加湿器を設置している。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>必要な方にはベッドに介助バーを取り付け、立ち上がり・移乗等、自立の支援を行っている。また、トイレ・浴室には手摺りを取り付け安全と自立への支援を行っている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>一人ひとりのわかる力を把握し、家庭的な雰囲気を壊さないよう工夫しながら自立支援に努めている。</p>		<p>トイレに目印をつけたり、カレンダーをつけている。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>外周りにはご利用者・職員が植えた草花があり、各居室から眺めることができる。また空いた空間に野菜も育てている。テラスでは外気浴しながら談話やお茶を楽しまれている。</p>		<p>ご利用者が自由に出入りし、草花に水をあげたり、摘んでリビングに飾ったり仏壇に供えている。 気候の良い日はテラスや庭のベンチでお茶を飲んだり、庭の四季折々の草花や木々を眺めながら会話も弾んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)